



# 向祖へも お参りませう

天理教の教会には、中山善衛・三代真柱様  
ご揮毫による「存命の理」の掛け軸が掲げら  
れています。

「存命の理」とは教祖のことです。教祖は  
現身を隠されて直接お姿を拝することは  
できませんが、いまなお存命のまま元のや  
しき（おちば）にお住まいになり、世界たす  
けの先頭に立って私たちをお導きくださっ  
ています。

教祖ご存命について、おさしづでは次の通  
りお教えくださっています。

「さあく、これまで住んで居る。何処へも  
行てはせんで、何処へも行てはせんで。日  
日の道を見て思やんしてくれねばならん。  
（中略）姿は見えんだけやで、同んなし事や  
で、姿が無いばかりやで。」（明治23年3月17日）

「影は見えぬけど、働きの理が見えてある。  
これは誰の言葉と思うやない。二十年以前  
にかくれた者やで。なれど、日々働いて居  
る。案じる事要らんで。勇んで掛ければ十  
分働く。」（明治40年5月17日）

私はおさしづを三年間、毎日朝晩唱え  
ながらお道を歩ませていただいたところ、  
教祖ご存命の温みや息づかい、不思議なお  
たすけを種々見せていただき、存命の理の  
信念を固めることができました。

「存命の教祖は原典を通して、私たちに親  
しく語りかけてくださっているのです」

（よふほく手帳より）  
存命の理こそ、この道の生命と申せましよう。  
私たちは存命の理におすがりし、たすけ一  
条の道に務めさせていただきますましよう。

本島大教会布教部（晴）

